

# Vascular Street

特集

福岡大学病院新診療棟開院記念公開講座  
 ～命の大切さを考える パート3～ 370名の参加ありがとう!!!

福岡大学特色ある教育:

## 「健康を科学する多元的教育機関の構築と、 健康社会づくりを担う人材の養成」

主催：福岡大学エクステンションセンター、福岡大学医学部、福岡大学病院、福岡大学医学部同窓会烏帽子会、  
 福岡大学病院ハートセンター、NPO 法人臨床応用科学



はじめに

「命の大切さを考える」公開講座をこの数年毎年行っている。今回は第3回目、福岡大学エクステンションセンターと福岡大学病院ハートセンターが中心となり、胸骨圧迫、コールアンドプッシュの教育・実践を行った。

近年、生活習慣病の増加により、癌や心臓疾患、脳卒中が日本人の死因の60%を占めている。偏った食生活や運動不足、喫煙、飲酒、ストレスなど日々の生活習慣の見直しや改善を試みる事が、これら疾患の最大の予防法であり、この対策をいかにに行い、人的および経済的損失を少なくするかが重大な課題である。

そこで私達は次のように考えた。生活習慣病リスク年齢に達する前の思春期、青年期に、健康に関する自己管理ができる知識と実行力を養成することは、前述した予防医学に大きく貢献することになるのではないかと。福岡本学には青年期にある約2万人の学生が在学しており、彼らに対して健康増進をキーワードとした質の高い教育内容と教育環境を提供し、自己の健康づくりはもとより地域の健康づくりを担う人材として育成していくことは、現代社会がかかえる問題解決の一つになるし、地域社会への貢献にもつながる。

平成23年1月4日より、福岡大学病院新診療棟、メディカルホール、およびメディカルフィットネスセンター等地域の健康増進に寄与する施設が設置された。福岡大学は、医学、薬学、スポーツ科学の健康を科学する学部を擁するため、エクステンションセンターを中心に「特色ある教育」のプロジェクトの一つとして「健康を科学する多元的教育機関の構築と、健康社会づくりを担う人材の養成」と題し、大学にグラント申請し認められた。本企画は、具体的には、AED(自動体外式除細動器)の使用の実践教育、食育への介入教育、健康を科学する運動の重要性を知ることで、学部横断的な学問と教養が身につくことをテーマにした。これらの提案は今後メディカルフィットネスセンターを全学的に開放する取り組みを進めるためのパイロットプランとして十分機能する。また「命の大切さ」を知る試みが底辺に存在し、疾病、障害をもつ人達の社会的なサポートを学ぶきっかけとなる。学生自身の健康状態を自覚させ、自らの健康管理と健康増進を図れる知識と資質の涵養と実行力を身につけるプログラムを提供する。この取り組みに参加した学生が自らの健康増進はもとより、健康増進サポーターとして学内はもとより地域での健康増進活動を実践できる力を身につけ、地域の健康増進活動に貢献できる人材を育成する。その結果として、健康社会づくりの新規職種の創出、起業、アイデアの実践を介して社会に様々な可能性を提言できるという主旨である。

さて、今回は「あなたの手で救える命がある!」とのタイトルで、いつ、どうやって、どのように胸骨圧迫するかをテーマにした。多くの市民の皆さんに応募していただいたが、残念な

がら会場のスペースのため入場制限をさせていただいた。約350名超の参加があり、大盛況だった。特別ゲストは福岡で活躍している Windy の皆様、1960～1970年代の歌がお得意なグループサウンズで、その頃が青春時代だった方々に大人気の地元福岡のグループである。軽妙な健康に関するおしゃべりと演奏と歌がすばらしい。スタジオパラディソ 森山瑛子先生にはコールアンドプッシュ体操をお願いした。

いくつかのスライドを紹介したい。

突然死とは：「予期していない突然の病死」のこと、交通事故、怪我など、外因性ものは除く、病気が発症してから24時間以内に死亡した場合の事をさす。日本の病院以外での突然死は年間約10万人、心臓突然死は約5～6万人いる。駅やデパートなど人が大勢いるところで倒れると、誰かがどうにかしてくれるが、自宅で起こると予後が良くないものである(表1)。

### 他人ごとではない突然死

—日本の突然死の実態—

- ①日本の病院外での突然死(心肺停止)は年間約10万人
- ②日本人の心臓突然死(心停止)は年間約5～6万人(毎日約130人)
- ③目撃者がいるのは約2万人で、うち1万人が応急手当を受ける
- ④80%が自宅で起こる(睡眠中、食事中、安静中)
- ⑤目撃率、心臓マッサージ率、生存率は駅などの場所よりも自宅のほうが悪い

表1

突然死は若い年代でも起こることがある。各年齢ごとの急性心臓死の発症数を図1に示すが、20代でもある。

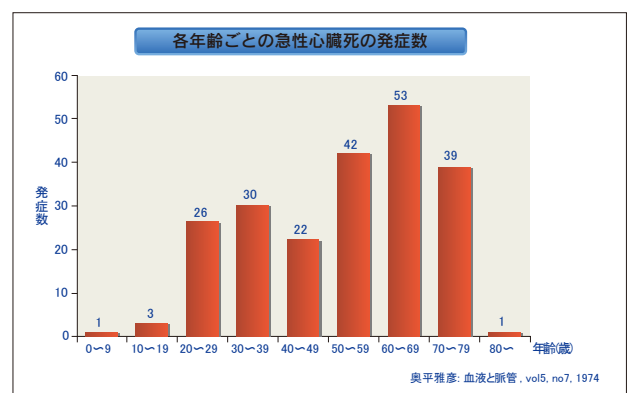


図1

突然死の原因の6割以上は心臓病である。Netterの教科書に、心臓病、狭心症の発症の瞬間が描かれているが、暖かいレストランで食事をとった後、急に寒いところに出て、重い荷物を持って階段を上がっている時に狭心痛はおこり



やすいのだが(図2)、この直後に致死的不整脈が起こる可能性が高い。



図2

日本全国で22万台設置されているAEDだが、2007度は300回しか使用されていない。もし、3,000回、30,000回使用されたら、もっと救われる命がある。「心臓発作を起こすなら、シアトルで」という標語がある。私たちは「心臓発作を起こすなら、福岡で」を合言葉に、胸骨圧迫の啓発活動を行っている。そんなミッションが伝われば最高である。私達は日本循環器学会の救急のホームページ作成にあたってきた。きれいな画像でAEDを使い方をわかりやすく解説している(図3)。また、AEDが設置されたところのしかAEDのマークがないので、AEDがどこにあるかを示すシールも現在作成中(図4)である。今年1月30日に内科学会主催内科救急・ICLSコースが福岡大学メディカルフィットネスと福岡大学病院多目的ホールでひらかれた(図5)。



図3



図4

福岡大学病院循環器内科の医師達はこのような活動を循環器専門医のミッションにして行っている。ディレクターとしてまたブース長として活躍している。



第17回 日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会(JMECC) 2011.1.30. 福岡大学病院

図5

## 満員御礼

### Windy in 福岡大学病院メディカルホール

Windyの紹介 同級生4人でスタートしたグループサウンズ、福岡を中心に活動をされています。昭和54年、福岡市天神にあるGSバブ「ウインディー」をオープンされました。グループ結成は今年で41年、ベンチャーズ、ワイルドワズ等の、1960年から1970年代の歌を中心とした中高年の憩いのライブハウス、店はいつも超満員状態!GSとオールディーズ、中高年の皆さんに愛されているグループです。



### 森山 暎子 先生による コールアンドプッシュ



### Prof. Saku's Commentary

福岡大学メディカルホールでも Windy のコンサートができました。今回はこのエビデンスも重要でした。内科救急・ICLS コースもメディカルフィットネスや多目的ホールで開催することができました。内科認定医受験者は将来的にこの受講が義務化されますので、希望者は内科学会のインターネットを見て応募してください。福岡大学特色ある教育ですが、平成22年度で終了します。平成23年度からは「魅力ある学士課程教育支援」のプロジェクトの中で、「命の大切さを実践する」学士課程の創設の課題が採択されましたので、救急コースをそのなかで実践していきます。このような活動は循環器専門医のミッションですが、パッションでもってやっていきます。